



県内主要産業の動向

2016年11・12月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	16年10月	16年11月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	全体的に低調な状況。既存品の修理や小口の受注が目立つ。国内需要の不振から、自社ブランドの新商品開発の動きも鈍い。取引拡大のため、今後は海外需要の取り込みが課題。そうした中、産地では、後継者が少ないナイフ製造の技術伝承のため、講習会を開催して人材育成を図っている。
金属 ハウスウェア	●	●	→	受注は総じて低調。特に、従来からの主力商品である厨房用器物が振るわない。一方、異物混入防止や安全性重視の観点から、金属製の保存容器に引き合い。ユーザーは食品工場からITプラントまで広がってきている。産地では、今後の取引拡大に期待する声も聞かれた。
作業工具	◐	◐	→	国内向け販売は秋口の需要期を過ぎ低調。建築関連工具は安定した動きながら、ホームセンター向けは依然弱含み。一方、輸出は円安傾向を要因に好転。東南アジアを中心に日本製品の需要は高く、当面の伸びが期待される。鋼材、燃料価格は共に上昇しており、採算面の懸念材料に。
電子部品 ・デバイス	●	◐	→	受注は戻り基調。鋳工業指数の動きをみると、生産指数は底離れ、出荷指数は持ち直しの兆し。電子部品関連では携帯端末向けなどで復調の動き。一方、産業機械向けはなお弱含み。半導体関連では市況の改善などから素材や製品の一部で持ち直し。先行きは受注環境の好転に期待。
鋳物	●	●	→	受注は低調。工作機械向けは大型・小型とも依然として低迷。また、自動車向けも弱含んで推移。そうした中、一部では持ち直しの兆し。収益面では、鉄スクラップ価格の上昇が続く中、円安進行から輸入資材価格も上昇が懸念されるなど、厳しさが増す。先行きも不透明感が強い。
金型	◐	◐	→	受注は横ばい。自動車関連では各社まちまちながら堅調な動き。暖房機関連も需要期入りし盛り返してきた。県央地区での受注状況を反映する資材の共同購入動向も前月並みのトレンドで推移。為替が円安基調にあることから、主要取引先である自動車産業からの需要拡大に期待。
一般機械	◐	◐	↘	スマートフォン関連は需要増に繋がる好材料が乏しい。建設・プラント関連は全般的に弱含み。自動車関連は北米市場にて中型車を中心に増産傾向。航空機関連は新興国の旅客機需要の拡大で高水準を維持。海外経済の先行き懸念により国内外ともに慎重な動きが継続。特に為替および米国の新政権移行後の経済動向に注視。



業種	景況			コメント
	16年10月	16年11月	先行き	
絹織物	●	●	→	十日町産地では、展示会等イベント数の少なさに加え、集客力の低下もあり、受注量は低迷が続く。白生地等の資材価格はメーカーでの在庫水準の高まりとともに低下傾向で、収益面では幾分改善。五泉産地では、生産が前年を上回った。先行きは、消費低迷から両産地とも厳しい受注環境を見込む。
合織織物	●	●	→	春物生産期。栃尾産地では、先染を中心に生産量が前年を下回って推移。見附産地では、婦人服は前年並みを確保したものの、紳士服が前年割れ。夏物の引き合いがほとんどみられず、先行きも厳しい状況が見込まれる。そうした中、東京での来秋冬向け展示会に出展し、栃尾産地の製品PRに努めた。
ニット	●	●	→	春物生産期。産地での生産量は前年を下回る水準。足下でも追加受注はみられず。消費低迷や低価格志向により、店頭売上は落ち込んでおり、今後も厳しい状況が続く見込み。そうした中、見附産地では地元商工会を中心に「ミツケニット」ブランドでの通販を一般向けに開始し、認知度向上と販路拡大に注力。
木工家具	●	●	→	業況は総じて低調。業務用では一時受注に動きがみられたが長続きせず。年末商戦向け受注も盛り上がりせず。家庭用では大型製品の需要が弱い。小物類などのアイデア商品取扱にシフトする動きもみられるが、業況好転には至らず。組合では他業態との連携により製品イメージPRに注力。
清酒	●	●	→	11月の出荷量は、県外向けが前年並みであった一方、県内向けが前年を下回った。販路別では、飲食店向けが引き続き不振。酒類別では、本醸造酒、普通酒の落ち込みが目立つ。12月の最需要期を迎えているが、消費者の節約志向などから出荷が伸び悩んでいるとの声が多い。
米菓	◐	◐	↗	11月は需要期入りし定番品やおつまみ系商品が堅調で売上は前年を上回った。12月も最需要期を前に総じて前年並みで推移。そうした中、各社とも異業種とのコラボ商品や期間限定商品の発売で需要喚起。一部で円安や原油価格上昇を受け、今後の原材料価格高騰を懸念する声も。
建設	◐	◐	→	公共工事は、請負金額ベースで前年割れが続いていたが、国・市町村からの発注増により持ち直している。民間工事は、小規模工事が主体だが、医療・福祉などに底堅い動きがみられる。住宅建設は、ローン金利の低下や相続税対策を背景に、持家、貸家とも堅調な動きを示している。
大型小売店	◐	◐	→	11月は気温低下により重衣料や寝具などが堅調で、売上は前年を上回った。足下では例年より降雪が遅く冬物衣料の動きが鈍い一方、食品が堅調で売上は総じて前年並みで推移。クリスマス・お歳暮商戦もまもなく。年末年始に向けおせちや高級食材の売上に期待する声が聞かれた。